

- 憲法、教育基本法、学校教育法
- 学習指導要領
- 埼玉県教育大綱・埼玉県教育振興基本計画
- 埼玉県小中学校教育課程編成要領
- 彩の国教育改革アクションプラン
- 埼玉県指導の重点・努力点
- 朝霞市教育振興基本計画

令和6年度 **学校教育目標** 朝霞市立朝霞第四小学校

— **かしこい子 やさしい子 たくましい子** —

目指す児童像

<知> **かしこい子** <徳> **やさしい子** <体> **たくましい子**

自分で考え判断し行動できる、心豊かなたくましい児童の育成

<知・徳・体のバランスのとれた児童の育成> <道徳的な判断力、実践的態度を身に付けた児童の育成>

- 保護者、地域の方の願い
- 時代の要請 ・ 社会の変化
- 地域の実態
- 児童・学校の実態
- 前年度学校評価、学校関係者評価
- 各種学力調査、体力調査
- 学校生活アンケート
- 説明責任と情報開示

目指す学校像 **笑顔あふれる学校**

- 児童一人一人が夢を持ち自己実現できる学校
- 児童・保護者・教師が互いに認め合い生きる学校
- 安心・安全な学校

目指す教師像

- 児童一人一人を考え、情熱と使命感をもって指導できる教師
- 専門職としての誇りを持ち生涯学び続ける教師
- 調和と協調を大切にし、個性を創造的に発揮する教師

学校経営の基本方針

考える場を与え、判断力を育成し、実践させる学校 ～心豊かでたくましい子の育成～

- 1 一人一人の児童に確かな居場所を与え、それぞれのよさを発揮させ、自己実現できる学校を目指します。
- 2 学力向上を図ります。(授業時数の確保をし、補充学習を確実に実施しながら知識・技能を習得させるとともに活用する力を育てます)
- 3 よりよい人間関係を構築できる児童を育てます。(支え合い、助け合い、励まし合い、共に生きる姿勢を育てます)
- 4 規律を守る学校を作ります。
- 5 目標を持たせ、目標に向かって努力できる児童を育てます。(やりぬく喜び、達成感、成就感を体験させます)
- 6 児童、保護者、地域に信頼される学校をつくります。(学校評価を活用し情報発信しながら連携していきます)
- 7 いざというときに自分で正しく「動ける職員」「自分の身を守ることでできる児童」を目指します。(危機管理)

本年度の重点と努力点

1 学力向上のための授業時数確保および

確かな学力の育成：個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ◎「教育に関する3つの達成目標」の「学力」の定着⇒**しっかり、じっくり、何度でも**
 - はなまるタイム(朝)の実施
 - 日々の授業の充実(教える・書く・意見発表)
 - 朝読書(読み聞かせ)
 - 家庭学習でも**しっかり・じっくり・何度でも**
- ◎「児童一人一人の可能性を引き出す工夫」
 - 主体的、対話的な学習の充実
 - 個別最適な学びの場の設定
 - 協働的な学び、問題解決的な学習の充実
 - 教員同士の学び合いによる授業力の向上

2 体力の向上と道徳性の向上：「豊かな心」と「健やかな体」の育成

- ◎豊かな心の醸成と健やかな体づくり
 - あいさつ、返事、ありがとう、ごめんなさい
 - 丁寧な言葉づかい、整理整頓、学習用具の準備、**清掃の徹底**
 - 体力課題の解決(体力作り運動の推進)
 - 早寝早起き朝ごはん
 - 家庭との連携強化
- ◎特別支援教育の視点を持った授業展開
 - 考え議論する道徳
 - いじめ防止の取組
 - 体育授業の充実
 - 自己健康管理能力の育成
 - 自己肯定心の醸成
 - 社会性の育成
- ◎道徳教育と他の教育活動のリンク
 - 児童会活動、縦割り班活動活用
 - 体力向上

3 開かれた学校づくり

- ◎地域との連携・・・コミュニティスクール運営の充実 ・HPの内容充実
 - 教育活動の協力依頼
 - 防災教育(防災フェスティバル開催)
- ◎家庭との連携・・・保護者支援(学校応援団の活用・PTAとの連携)
- ◎幼保小中との連携・・・幼保相互連携(生活科) ・学校説明会の充実
 - 朝霞第一中学校との連携強化(生徒指導十学力)

4 安心・安全な学校づくり

- ◎防犯・交通安全への取組・・・交通指導員、見守りボランティアとの連携
 - 自分の身は自分で守る力の育成
 - 周辺企業との連携
- ◎施設・設備事故の防止・・・定期、臨時の安全点検
 - 危険個所の早期発見と対応
 - 危機回避能力の育成
- ◎災害時の対応・・・各種マニュアル、訓練の見直し・災害時の対応(※避難所開設) ・関係機関との連携 ・メール配信

5 きれいな学校づくり

- ◎清掃活動・・・無言清掃の励行 ・除草集会の充実
- ◎掲示活動・・・学校の教育活動が分かる掲示の内容充実
 - 学びのコーナーの充実
 - ユニバーサルデザインの視点
- ◎緑化活動・・・栽培活動の取組(学校ファーム等)
 - 花いっぱい運動(栽培委員会と学校応援団との連携)

6 教職員の資質・能力の向上と風通しがよく、居甲斐・やり甲斐・働き甲斐のある職場づくり

- ◎学校課題研修の取組の充実・・・個別最適な学び、協働的な学びの実現(朝四小スタイルの構築) インクルーシブ教育、タブレットの有効活用法の研究
- ◎若手教職員の育成・・・若手教員、臨任教員の研修の充実 ・授業力向上研修の実施 ・OJTの開催 ・教室訪問と授業参観の実施
- ◎ライフステージに応じた教職員の資質の向上・・・年次に応じた研修の推奨 ・示範授業等を通じた授業力向上研修 ・各主任を講師とする研修の実施
- ◎チーム力の向上と参画意欲の醸成・・・企画委員会の充実 ・主任、副主任連携 ・学年、ブロック、分掌の仕事の見直しとシェア ・ミドルリーダーの育成
- ◎教職員の不祥事防止・・・倫理確立委員会の充実(※対岸の火事とししない取組) ・教職への誇りを高める取組 ・風通しのよい職場づくり
- ◎教員の働き方改革・・・勤務時間の把握、カエル宣言(退勤時刻宣言) ・「ノー残業デー」「ふれあいデー」の奨励 ・年休の計画的取得

【学校教育目標】

◎かしこい子 ◎やさしい子 ◎たくましい子

「自分で考え、判断し、行動できる、心豊かでたくましい児童の育成」

【目指す児童像】

- ◎ かしこい子
 - ・進んで学ぶ子
 - ・本をたくさん読む子
 - ・よく考える子
- ◎ やさしい子
 - ・思いやりのある子
 - ・進んで協力する子
 - ・礼儀正しい子
- ◎ たくましい子
 - ・進んで運動する子
 - ・生命を大切にする子
 - ・ねばり強くやりとげる子

【目指す学校像】

- ◎ 笑顔あふれる学校
 - ・児童一人一人が夢を持ち、自己実現できる学校。
 - ・児童・保護者・教師が互いに認め合い生きる学校。
 - ・安心・安全な学校

【学校教育目標を達成するための教師像】

- ◎意欲と情熱を持つ教師
 - ・児童一人一人を考え、情熱と使命感を持って指導できる教師。
 - ・専門職としての誇りを持ち生涯学び続ける教師。
 - ・調和と協調を大切にし、個性を創造的に発揮する教師。

【学校経営方針】

- ◎学校教育目標の具現化に努め、その達成を目指す。
 - ・教職員の創意工夫を生かし、保護者・地域社会に開かれた、信頼される学校づくりに努める。また、コミュニティ・スクールを推進し、地域を巻き込んだ笑顔あふれる学校を具現化する。
 - ・児童一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育に努める。
 - ・ノーマライゼーションの理念に基づく教育を鑑み、インクルーシブ教育を推進する。
 - ・校内研修の充実と教師の指導力の向上に努める。

【学校教育目標具現化のための本年度の方針】

◎「かしこい子」

- ・主体的・対話的で深い学びを通じた「確かな学力」の育成はもちろん、『個別最適な学び』『協働的な学び』を実現するよう指導方法を不断に見直す。
- ・児童が「学びたい」と思う授業を創造するとともに、課題のある子どもへの学習支援を実施する。
- ・ICT 機器と児童一人一人のタブレット端末を活用した授業の工夫を行う。
- ・家庭と連携し学校教育への理解を求める。

◎「やさしい子」

- ・思いやりのある子、進んで協力する子の育成は、我々教師が児童に向き合う姿勢が大切である。児童や保護者との信頼関係を深め、「決して見放さない」というスタンスで、粘り強く指導に当たる。
- ・生活規範の醸成するために、学校と保護者が児童を真ん中に据えて、お互いができることを明確にし、児童を育てていく。

◎「たくましい子」

- ・体力の向上の育成は、前年度の新体力テストの結果分析から、課題を明確にし、授業・休み時間の遊び等、具体的に取り組む。体力を少しでも向上させ、心身ともに「たくましい子」を育成する。また、家庭との連絡を通じ、心と身体の健康を大切にする体制を整える。

【コミュニティ・スクールの充実のために】

コミュニティ・スクールとしての在り方を研究し、教育環境の整備に努め朝霞第四小学校の教育を充実させる。

さらにコミュニティ・スクールでは、運営協議委員や地域の方々からの意見を大切にし、これまでの取り組みを見直し、本校の教育活動の改善に努める。特に児童にとって体験的な学習を充実させるため、保護者、PTA、地域の教育力を活用した教育を実践する。外部の教育力をお借りし、その取り組みと成果を外部・社会へ発信することにより、朝霞第四小学校の教育をさらに深化できるように努める。また、運営協議会からの提案を積極的に受け入れるよう働きかけていく。

- ① 広く教育活動を公開し、保護者や地域、社会に学校を理解していただく。その中で得た評価を活かし、同時に多くの協力者を募り活用する。
- ② 教育環境の特性を活かす。現在の施設設備と立地を有効活用し、教育内容の充実を図る。
- ③ 衛生管理（手洗い・うがい・顔洗い）の徹底と施設設備の美化、安全管理（交通状況の把握、指導等）への配慮を行う。
- ④ 社会人講師や地域、外部の教育力をより活用する。道徳・各教科や諸活動において積極的に活用する。学校応援団もその一つとして連携を強化する。